



ASD 支援者が TEACCH® から学ぶべきこと

川崎医療福祉大学 諏訪利明 氏

「自閉症からスタートする」TEACCH®が、昔から今も変わらず大切にしている「4つの哲学」について、ご自身の経験や TEACCH®のスタッフから直接得られた学びを交えてお話いただきました。

哲学① ユニークな学習スタイル（なぜこのような支援が必要なのか）

ASD だからこそそのちがいとして、学習スタイルと感覚処理の特徴に注目する。「自閉症を理解する」とは「自閉症のユニークな学習スタイル」を理解すること。ちがいのある ASD の人と「どのように一緒に生きていくのか」、お互いの丁度よいところを探るためには、まず相手の文化を知るところから始まる。

暗黙的学習：どこにも、何も書かれていないことをくみ取って学んでいくことは難しい。顕在的に明示されていれば理解しやすい。

聴覚情報処理：聞いて理解することは難しい。「見て学習する」視覚的に考える具体的思考が得意である。

注意：狭いビームのような視点で細部に焦点を集中することに強みがある。関係あるものとなないものを見極めることは難しい。興味の対象に強い注意が向き、その注意を移すことが難しい。

実行機能：整理統合、順序や計画を立てること、「いつ始めて」「いつ終わるのか」を理解すること、変化に対応すること等、日常生活を送る上で常に求められるスキルの獲得が難しい。

社会的認知：相手に注意を向けることが難しい。「相手がどう思ったか」という気づきを教えていく。

感覚処理：感覚入力にフィルターをかけたり、調整したりすることが難しい。避けるだけでなく、浴びてしまった時にリラックスすることを教えていく。

哲学② Structured TEACCH®ing

学習スタイルから出てくる彼らのつまずきに上手にかみ合う構造化を支援として提供していく。学習スタイルを補って、目指すゴールは「自立」である。そのためには個別化が重要である。

物理的整理統合：「ここで何が起こるのか」に答える。

スケジュール：「どこに行ったらいいのか」に答える。

ワークシステム：「何をどれだけするのか」「いつ終わるのか」「次に何があるのか」に答える。

マテリアルストラクチャーと視覚支援：「どのようにしたらいいのか」に答える。

哲学③ 家族との協働（アセスメントの時から始まっている）

情報収集であるアセスメントの時から家族に話を聞いていく。理解した本人の特性は、家族に伝える。互いに情報を隠さない。ASDに限ったことではなく、「成人して生活していく時に、『こんな要素があったら、より豊かに生活できる』」という、要素を踏まえた上で、どんな生活（進路）に向かうか、その方向性を家族と共有することで、「今、本人はどこにいるのか」「何を目指しているのか」がわかりやすくなる。

哲学④ 全人的視点

自閉症の人の視点から事象を考えるものの見方で、「自分の専門性を ASD 支援にどう生かすべきか」、様々な立場の人が、その立場のちがいを生かした専門性をもって、多面的な側面から自閉症の人を見ていく。自閉症の人から考える、最も顕著な考え方が「氷山モデル」である。氷山として現れている本人の姿の水面下には、自閉症の学習スタイルがある。本人の学習スタイルに着目して「自閉症から考える」ことが重要である。

第2回セミナー講師「志賀利一」先生の著書御紹介



知的障害・自閉症のある人への行動障害支援に役立つ

アイデア集 65 例

志賀利一、林 大輔 中法規出版 2020.5



見てわかる意思決定と意思決定支援

志賀利一、渡邊一郎、青山均 ジアース教育新社 2016.9

知的障害・自閉症の人たちのための 見てわかる社会生活ガイド集

「見てわかる社会生活ガイド集」編集企画プロジェクト ジアース教育社

知的障害や自閉症の人たちのための 見てわかるビジネスマナー集

「見てわかるビジネスマナー集」編集企画プロジェクト ジアース教育新社



発達障害児者の問題行動—その理解と対応マニュアル

志賀利一 エンパワメント研究所 2000.3

令和3年度 千葉県TEACCHプログラム研究会 第3回連続セミナーのお知らせ

配信期間：9月3日（金）～9月26日（日）※8月27日（金）視聴申込締切

視聴日時：9月4日（土）14：00～15：30

視聴場所：千葉県教育会館203会議室

演 題：「自閉症支援におけるアセスメント（仮題）」

講 師：中山 清司 氏（NPO 法人 自閉症eスタイルジャパン代表）

※次回講師、中山清司先生の御紹介

大阪市立大学文学部人間関係学科卒業。和歌山大学大学院障害児教育 修士課程修了。

1992 社団法人横浜やまびこの里に就職。知的障害者、自閉症者の支援に関わる。

2002 年米国ノースカロライナ大学 TEACCH 部インターンとして研修。

2004 年社会福祉法人横浜やまびこの里「仲町台センター」地域支援課長兼「ヘルパーセンターやまびこ」所長。

現在は、よこはま発達相談室セラピスト（非常勤）、社会福祉法人北摂杉の子会スーパーバイザーを行いながら、自閉症eスタイルジャパン代表を務める。

～自閉症eスタイルジャパンホームページ (jilheishou-e.com)より引用抜粋～

【編集後記】視察やミーティング等で実際に TEACCH のスタッフから学び続けていらっしゃる諏訪先生。自閉スペクトラム症の方への支援として視覚支援がスタンダードになってきた昨今、その根拠「『なぜそうするのか？』という視点が無いがしろにされていないか？！」という投げかけにハッとしました。「TEACCH が自閉症からスタートするところは変わらない。」「TEACCH は変わっていない。」「昔から言われていたことが今でもちゃんと生かされている。」という先生の言葉がたいへん印象的でした。（文責：岡村）